取扱説明書

RadiForce®

MX277W

カラー液晶モニター

- モニターの設定 / 調整については、設定マニュアルを参照してください。
- 取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。
  www.eizo.co.jp

重要

- **ご使用前には必ずこの取扱説明書および設定マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。**
- **この取扱説明書は大切に保管してください。**
- **製品の仕様は販売地域により異なります。販売地域外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。**
- **ご使用前には、「使用上の注意」および本体の「警告表示」をよく読み、必ずお守りください。**

目次

使用上の注意 3
絵表示について 3
製品に使われている記号について 4

モニターについて 8
使用用途 8
使用上の留意点 8
モニターを長くご使用いただくために 9
モニターを快適にご使用いただくために 10
サイバーセキュリティに関するお願い 10

1 はじめに 11
1.1 梱包品の確認 11
1.2 各部の名称と機能 12

2 設置 / 接続 15
2.1 設置の前に 15
2.2 接続する 16
2.3 電源を入れる 18
2.4 高さ、角度を調整する 18
2.5 （ご参考に）アーム取り付け方法 19

3 画面が表示されない場合には 21

4 仕様 23
4.1 仕様一覧 23
4.2 対応解像度 25
4.3 オプション品 26

付録 27
医療規格 27
VCCI 27
その他規格 27
EMC情報 28

アフターサービス 35
製品の使い方に関するお問い合わせ 35
修理に関するお問い合わせ 35
製品回収、リサイクルシステムについて 35

使用上の注意

絵表示について

本書および本体では次の絵表示を使用しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告**	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある内容を示しています。
⚠ **注意**	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性がある内容、および物的損害のみ発生する可能性がある内容を示しています。
△	注意（警告を含む）を促すものです。
⃠	禁止の行為を示すものです。
●	行為を強制したり指示するものです。

製品に使われている記号について

記号	意味
	主電源スイッチ：この製品の主電源をオフにします。
	主電源スイッチ：この製品の主電源をオンにします。
	電源スイッチ：この製品の電源をオンまたはオフにします。
	交流
	危険電圧
	注意
	WEEEマーク
	CEマーキング：EU指令 / 規則に適合していることを示すマーク
	法律上の製造業者
	製造日
	警告：連邦法（アメリカ合衆国）に基づき、本製品は、認可された医療関係者による販売または注文のみ許可されています。
	EUにおける輸入者
	スイス指定代理人

記号	意味
	欧州指定代理人
	機器固有識別子
	医療機器 ※医療機器への該当性は各国において異なります。
	段ボールのリサイクルマーク
	リサイクルマーク
	欧州包装廃棄物指令に基づく段ボールの材質表示
	最大積段数（記号内の数値は製品によって異なります。）
	天地無用
	水濡れ注意
	われもの注意
	取扱説明書を参照してください。

⚠警告

万一、異常現象（煙、異音、においなど）が発生した場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて販売店またはEIZOメンテナンスセンターに連絡する

そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

分解しない、製品を改造しない

この製品内部には、高電圧や高温になる部分があり、感電、やけどの原因となります。また、改造は火災、感電の原因となります。

修理は販売店またはEIZOメンテナンスセンターに依頼する

お客様による修理は火災や感電、故障の原因となりますので、絶対におやめください。

異物を入れない、液体を置かない

この製品内部に金属、燃えやすい物や液体が入ると、火災や感電、故障の原因となります。

万一、この製品内部に液体をこぼしたり、異物を落とした場合には、すぐに電源プラグを抜き、販売店またはEIZOメンテナンスセンターにご連絡ください。

丈夫で安定した場所に置く

不安定な場所に置くと、落下することがあり、けがの原因となります。

万一、落とした場合は電源プラグを抜いて、販売店またはEIZOメンテナンスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。

次のような場所で使用しない

火災や感電、故障の原因となります。

- 屋外
- 車両･船舶などへの搭載
- 湿気やほこりの多い場所
- 水滴のかかる場所。浴室、水場など
- 油煙や湯気が直接当たる場所
- 熱器具、加湿器の近く
- 直射日光が直接製品に当たる場所
- 可燃性ガスのある環境
- 腐食性ガス（二酸化硫黄、硫化水素、二酸化窒素、塩素、アンモニア、オゾンなど）が発生する環境
- ほこりや空気中に腐食を促進する成分（塩化ナトリウムや硫黄など）や導電性の金属などが含まれている環境

プラスチック袋は子供の手の届かない場所に保管する

包装用のプラスチック袋をかぶったりすると窒息の原因となります。

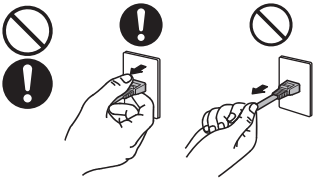
付属の電源コードを使用し、100VAC電源に接続して使用する

付属の電源コードは日本国内100VAC専用品です。

誤った接続をすると火災や感電の原因となります。

電源コードを抜くときは、プラグ部分を持つ

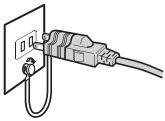
コード部分を引っ張るとコードが傷つき、火災、感電の原因となります。



電源コンセントが二芯の場合、付属の二芯アダプタを使用し、安全（感電防止）および電磁界輻射低減のため、アースリード（緑）を必ず接地する

なお、アースリードは電源プラグをつなぐ前に接続し、電源プラグを抜いてから外してください。順序を守らないと感電の原因となります。

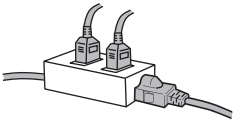
二芯アダプタのアースリード、および三芯プラグのアースが、コンセントの他の電極に接触しないようにしてください。



次のような誤った電源接続をしない

誤った接続は火災、感電、故障の原因となります。

- 取扱説明書で指定された電源電圧以外への接続
- タコ足配線



電源コードを傷つけない

電源コードに重いものをのせる、引っ張る、束ねて結ぶなどをしないでください。電源コードが破損（芯線の露出、断線など）し、火災や感電の原因となります。

操作者はこの製品に触れたまま患者に接触しない

この製品は患者との接触を意図していません。

雷が鳴り出したら、電源プラグやコードには触れない

感電の原因となります。

アーム（または他のスタンド）を使用する場合は、それらの取扱説明書の指示に従い、確実に設置する

確実に設置されていないと、外れたり、倒れたりしてけがや故障の原因となります。

設置する前に、アームやスタンドを固定する机や壁などに十分な強度があるか確認してください。

万一、落とした場合は電源プラグを抜いて、販売店またはEIZOメンテナンスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となります。また、取り外したスタンドを再度取り付ける場合には必ず元のねじを使用し、確実に固定してください。

液晶パネルが破損した場合、破損部分に直接素手で触れない

もし触れてしまった場合には、手をよく洗ってください。

万一、漏れ出た液晶が、誤って口や目に入った場合には、すぐに口や目をよく洗い、医師の診断を受けてください。そのまま放置した場合、中毒を起こす恐れがあります。

高所への取り付けは専門業者に依頼する

モニターを高所に取り付ける場合、製品およびその部品等が落下してけがの原因となる恐れがあります。当社または工事専門業者に、取り付け前後の製品の破損や変形がないかの点検も含め、取り付けを依頼してください。

⚠注意

使用する前に必ず動作確認をする

表示画像に問題がないことを確認してから使用してください。

多画面を使用する場合は、正常に画像が表示されていることを確認してから使用してください。

固定機能付きケーブル / コードは、固定して使用する

固定せずに使用すると、ケーブル / コードが抜けて画面が表示されなくなり、作業が中断する原因となります。

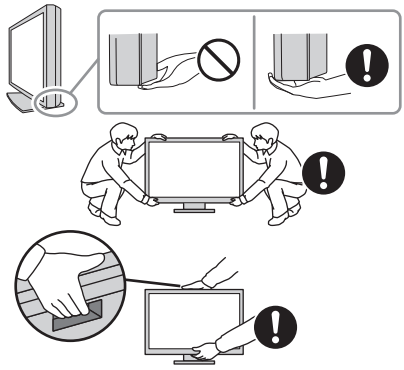
運搬のときは、接続コードやオプション品を外す

コードを引っ掛けたり、移動中にオプション品が外れたりして、けがの原因となります。

この製品を移動させるときは、正しい方法で移動する

- この製品を移動するときは、画面の下部をしっかりと持つ。
- 30インチ以上のモニターの場合、開梱や持ち運びは必ず2人以上でおこなう。
- モニター背面にハンドルのある機種の場合は、ハンドルと画面の下部をしっかりと持つ。

落としたりするとけがや故障の原因となります。



手を挟まないように注意する

モニターの高さや角度を調整する際に、勢いよく力を加えると、手を挟んでけがをする恐れがあります。

通風孔をふさがない

- 通風孔の上や周囲にものを置かない。
- 風通しの悪い、狭いところに置かない。
- 横倒しや逆さにして使わない。

通風孔をふさぐと、内部が高温になり、火災や感電、故障の原因となります。

濡れた手で電源プラグに触れない

感電の原因となります。



電源プラグの周囲にものを置かない

火災や感電防止のため、異常が起きたときすぐ電源プラグを抜けるようにしておいてください。

電源プラグ周辺、モニターの通風孔は定期的に掃除する

ほこり、水、油などが付着すると火災の原因となります。

クリーニングの際は電源プラグを抜く

プラグを差したままでおこなうと、感電の原因となります。

長時間使用しない場合には、安全および省エネルギーのため、本体の電源を切った後、電源コンセントから電源プラグも抜く

モニターについて

使用用途

この製品は、一般撮影やMRI、CTなどの医用画像表示用途に適しています。

注意点

- 本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。
- 本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。
- この製品には、当社オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

使用上の留意点

- 長時間使用することにより、部品（液晶パネルやファンなど）が劣化することがあります。正常に動作することを定期的に確認してください。
- 同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として残ることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはスリープ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が残ることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。
- モニターの表示が安定するまでに、数分かかります。モニターの電源を入れたあと、または省電力モードから復帰して数分以上経過してから使用してください。
- 表示状態を長時間続けると、表示面にシミやムラ、焼き付きが発生する場合がありますのでご注意ください。モニターを長くお使いいただくため、定期的にモニターの電源をオフにすることをお勧めします。
- 液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、バックライトの寿命が早まり、交換が必要となる場合があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
- 画面上に欠点、発光している少数のドットが見られることがありますが、液晶パネルの特性によるもので、製品本体の欠陥ではありません。
- 液晶パネルの表面や外枠は強く押さないでください。強く押すと、干渉縞が発生するなど表示異常を起こすことがありますので取り扱いにご注意ください。また、液晶パネル面に圧力を加えたままにしておくと、液晶の劣化や、液晶パネルの破損などにつながる恐れがあります。（液晶パネルを押した跡が残った場合、画面全体に白い画像または黒い画像を表示すると解消されることがあります。）
- 液晶パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。
- 内蔵キャリブレーションセンサー（Integrated Front Sensor）に触れないでください。測定精度の低下や破損の原因となります。
- 内蔵の照度センサーは、環境によっては照度計と異なる測定値を示す場合があります。
- この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたり、温度が低い部屋から高い部屋に移動したりすると、製品の表面や内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

モニターを長くご使用いただくために

品質管理

- モニターの表示品質は、入力信号の品位や製品の劣化により変化します。用途に応じた医療規格 / ガイドラインに従って、受入試験や日常点検、定期的な不変性試験（階調チェックを含む）を実施し、必要に応じてキャリブレーションを実行してください。モニター品質管理ソフトウェア RadiCS（別売オプション）を使うことで、医療規格 / ガイドラインに対応した高度な品質管理を実施することができます。なお、キャリブレーションをおこない、その履歴を管理するための簡易的なモニター品質管理ソフトウェアRadiCS LEも使用可能です。RadiCS LEは当社のWebサイトからダウンロードできます。（www.eizo.co.jp）
- 品質管理のための各種試験やキャリブレーション、モニターの画面調整は電源を入れたあと、または省電力モードから復帰して15分以上経過してからおこなってください。
- 長時間使用することによる輝度変化を抑え、安定した輝度を保つためには、推奨輝度またはそれ以下の輝度で使用されることをお勧めします。
- 内蔵キャリブレーションセンサー（Integrated Front Sensor）と別売りの外付けセンサーの測定結果を同等にするためには、RadiCS / RadiCS LEを使用してIntegrated Front Sensorと外付けセンサーの相関取り（コレレーション）を実行してください。定期的なコレレーションにより、Integrated Front Sensorは外付けセンサーと同等の測定結果を維持することができます。コレレーションに関する詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。
- 内蔵の照度センサーと照度計の測定結果を同等にするためには、RadiCS / RadiCS LEを使用して照度センサーの相関取り（コレレーション）をおこなってください。照度センサーのコレレーションに関する詳細は、RadiCS / RadiCS LE取扱説明書を参照してください。

注意点

- 誤操作や意図しない設定の変更により、モニターの表示状態が変更される場合があります。モニターの画面調整後は、操作スイッチをロックした状態でのご使用をお勧めします。
  設定方法の詳細は、設定マニュアルを参照してください。

クリーニング

- この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをお勧めします。
- 製品に付いた汚れは、少量の水や、水で薄めた中性洗剤をしめらせた柔らかい布を使って、やさしく拭き取ってください。

注意点

- シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナは、製品をいためるため絶対に使用しないでください。
- 消毒のためにアルコールなどの薬品を使用すると、ひび割れ、光沢の変化、変色、色あせ、表示画質の劣化などにつながる恐れがあります。ご使用の際は次の点に注意してください。
  - 製品に薬品を直接吹き付けないでください。
  - 薬液含浸済のウエットワイパー類は液量が多いことがありますので使用をお控えください。
  - 製品の隙間や内部に薬品が入らないようにしてください。
- クリーニングおよび消毒の詳細は、当社Webサイトをご確認ください。
  確認方法：www.eizo.co.jpにアクセスし、サイト内検索ボックスに「消毒」と入力して検索

薬品による消毒

- 柔らかい布地に、軽くしめらせる程度の薬品を付けてやさしく拭いてください。
  製品を消毒する場合は、当社でテスト済みの薬品の使用をお勧めします（次の表を参照してください）。なお、これらの薬品を使用した場合でも、製品が損傷したり劣化しないことを保証するものではありません。

分類	薬品の種類	濃度
アルコール類	エタノール	70 v/v%
アルコール類	イソプロパノール	70 v/v%
塩素系	次亜塩素酸ナトリウム	0.1 %
両性界面活性剤	塩酸アルキルジアミノエチルグリシン	0.2 %
第四級アンモニウム塩	塩化ベンザルコニウム	0.2 %
ビグアナイド系	クロルヘキシジングルコン酸塩	0.1 %
酸化剤	加速化過酸化水素水	0.5 %

モニターを快適にご使用いただくために

- 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。
- 画面は、適切な距離および角度でご覧ください。

サイバーセキュリティに関するお願い

- ファームウェアのアップデートはEIZO株式会社またはその代理店を通じて実施してください。
- EIZO株式会社またはその代理店からファームウェアをアップデートするように案内があった場合は速やかにアップデートをおこなってください。

1 はじめに

このたびは当社カラー液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

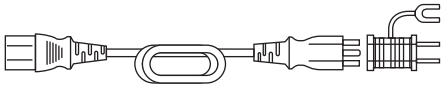
1.1 梱包品の確認

次のものがすべて入っているか確認してください。万一、不足しているものや破損しているものがある場合は、販売店またはお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

注意点

- 梱包箱や梱包材は、この製品の移動や輸送用に保管していただくことをお勧めします。

- モニター本体
- 電源コード（二芯アダプタ付き）



- デジタル信号ケーブル（DisplayPort - DisplayPort）：PP300-V14



- USB2.0ケーブル（USB-A - USB-B）：MD-C93



- EIZO LCDユーティリティディスク
- はじめにお読みください（保証書付き）※1
- 取扱説明書（本書）※2
- 出荷試験報告書

※1 製品によっては代わりに取扱説明書が付属している場合があります。

※2 製品によってはEIZO LCDユーティリティディスクにのみ収録されています。

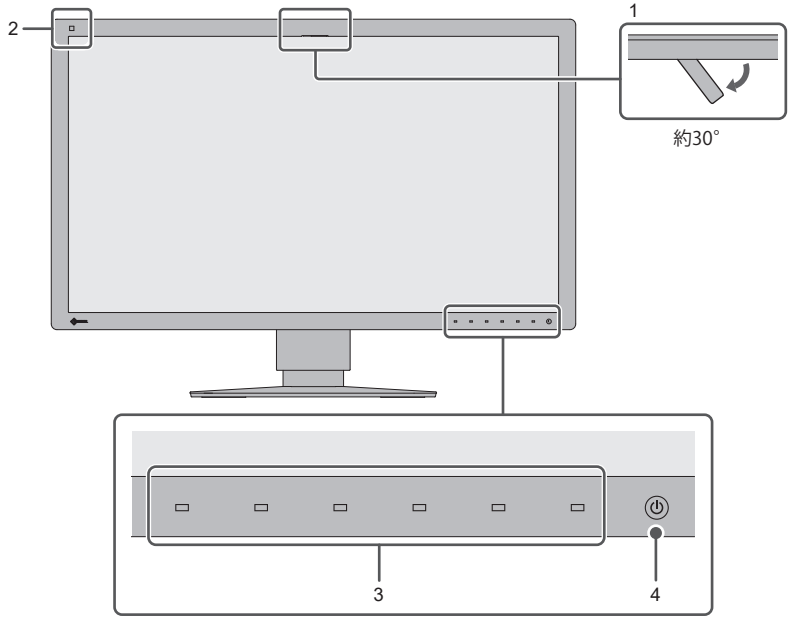
1.1.1 EIZO LCDユーティリティディスクの収録内容

ディスクには、次のものが収録されています。

- 取扱説明書
  - モニターの取扱説明書
  - モニターの設定マニュアル
- 製品寸法図

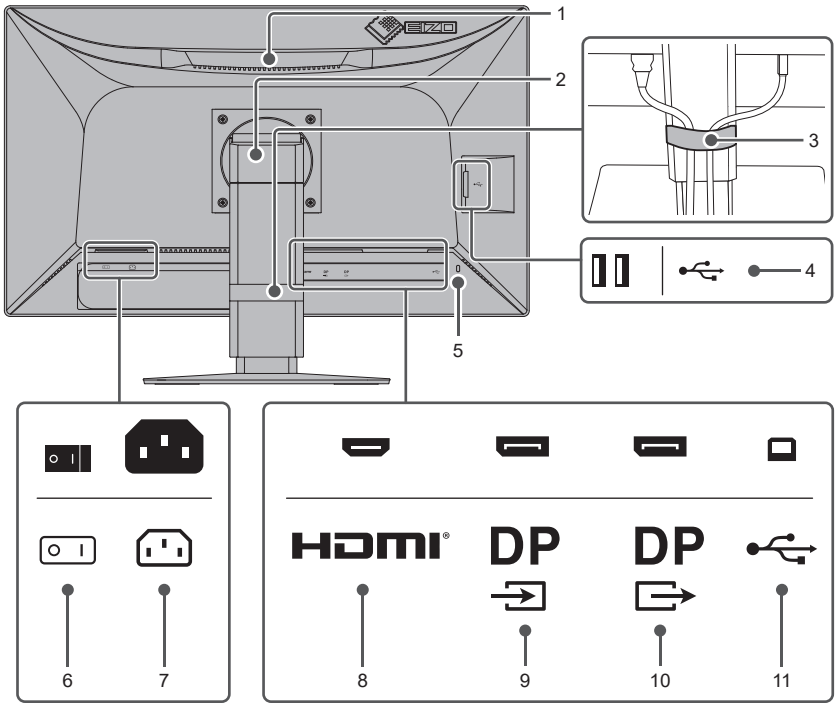
1.2 各部の名称と機能

1.2.1 前面



1. Integrated Front Sensor（可動式）	キャリブレーションや階調チェックをおこなうためのセンサーです。
2. 照度センサー	環境照度を測定するセンサーです。環境照度の測定は品質管理ソフトウェアRadiCS / RadiCS LEを使っておこないます。
3. 操作スイッチ	操作ガイドを表示します。操作ガイドに従って各種メニューを設定します。
4. 電源スイッチ	電源のオン / オフを切り替えます。 電源を入れると、スイッチのランプが点灯します。モニターの動作状態に応じてランプの色が変化します。 緑：通常動作モード、橙：省電力モード、 消灯：主電源オフまたは電源オフ

1.2.2 背面



1. ハンドル	運搬用のハンドルです。 **注意点** • 運搬時にはハンドルと画面の下部をしっかりと持ち、液晶パネル面に圧力をかけたり、モニターを落としたりしないようご注意ください。モニター前面のセンサー部は持たないでください。
2. スタンド	高さと角度（チルト、スウィーベル、ローテーション）が調整できます。
3. ケーブルホルダー	ケーブルをすっきりとまとめることができます。
4. USB-Aコネクタ（ダウンストリーム）	USBデバイスと接続します。デイジーチェーン接続する場合は、他のモニターのUSBアップストリームポートに接続します。
5. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
6. 主電源スイッチ	主電源のオン / オフを切り替えます。 ◯：オフ、 ｜：オン
7. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
8. HDMI®コネクタ	HDMI信号出力のあるコンピュータを接続します。
9. DisplayPort™信号入力コネクタ	DisplayPort信号出力のあるコンピュータを接続します。

10. DisplayPort信号出力コネクタ	デイジーチェーン接続する場合に、他のモニターのDisplayPort信号入力コネクタと接続します。
11. USB-Bコネクタ（アップストリーム）	USB接続が必要なソフトウェアを使用する場合や、この製品のUSBハブ機能を使用する場合にコンピュータと接続します。

2 設置 / 接続

2.1 設置の前に

「使用上の注意」 [P. 3]をよく読み、必ずお守りください。

ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。

2.1.1 設置条件

モニターをラックなどに設置する場合は、周囲（側面、背面、上方）に十分な空間を確保してください。

注意点

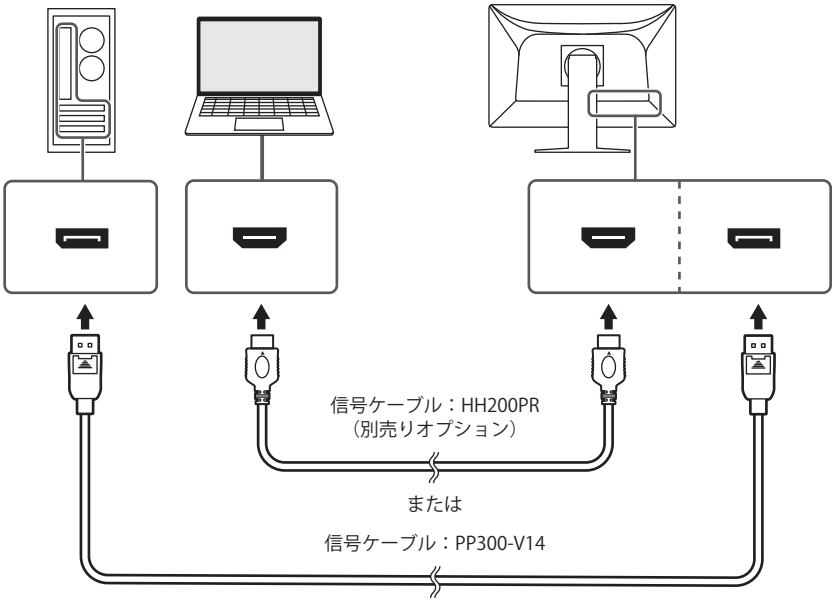
- 照明の光が画面に映り込まないようにモニターを配置してください。

2.2 接続する

注意点

- モニター、コンピュータ、および周辺機器の電源は切った状態で接続してください。
- 今まで使用していたモニターをこの製品に置き換える場合、コンピュータと接続する前に「4.2 対応解像度」 [P. 25]を参照し、コンピュータの設定をこの製品で表示できる解像度 / 垂直走査周波数に変更してください。
- ケーブルが差し込みにくい場合は、画面の角度を調整してください。

1. 信号ケーブルを接続します。
   コネクタの形状を確認して、ケーブルを接続してください。

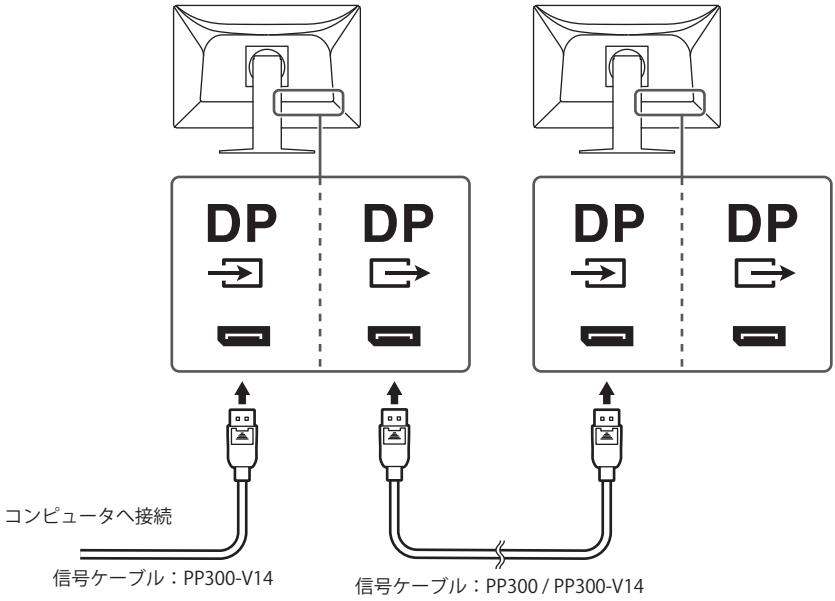


注意点

- モニターのDisplayPortコネクタには入力と出力があります。モニターとコンピュータを接続する場合は、入力コネクタに接続してください。
- HDMI信号の場合、リミテッドレンジで表示されることがあります。
- 複数のコンピュータに接続する場合は、入力信号を切り替えて使用してください。詳細は、設定マニュアル「基本の調整 / 設定」を参照してください。
- ケーブルが差し込みにくい場合は、画面の角度を調整してください。

別のモニターにデイジーチェーン接続する場合

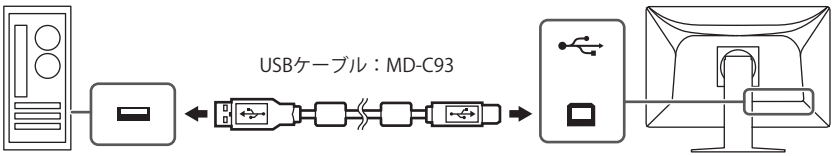
DisplayPort信号入力コネクタ（DP）に入力した信号を他のモニターに出力します。



注意点

- デイジーチェーン接続が可能なモニターとグラフィックスボードは、当社のWebサイトでご確認ください。
  （www.eizo.co.jp）
- デイジーチェーン接続をする場合は、管理者設定メニューの「Daisy Chain」を「オン」に設定する必要があります。管理者設定メニューへの入り方および設定方法の詳細は、設定マニュアル「管理者向け設定」を参照してください。
- 信号ケーブルを接続する前にDisplayPort信号出力コネクタ（DP）のキャップを外してください。

2. 付属の電源コードをモニターの電源コネクタと電源コンセントに接続します。
   電源コードをモニターの奥まで差し込んでください。
3. RadiCS / RadiCS LEを使用する場合やモニターにUSBデバイス（USBに対応している周辺機器）を接続する場合は、USB2.0ケーブルをモニターのUSB-Bコネクタとコンピュータの USB-Aコネクタに接続します。



2.3 電源を入れる

1. ⏻に触れて、モニターの電源を入れます。
   モニターの電源スイッチのランプが緑色に点灯します。
   ランプが点灯しない場合は、「3 画面が表示されない場合には」 [P. 21]を参照してください。

注意点

- モニターの電源が入っていない状態で、⏻を除くいずれかの操作スイッチに触れると⏻が点滅して、電源スイッチの場所をお知らせします。

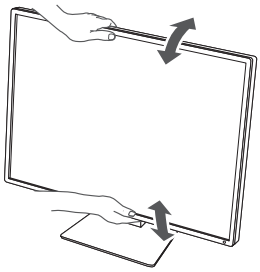
2. コンピュータの電源を入れます。
   画面が表示されます。
   電源を入れても画面が表示されない場合は、「3 画面が表示されない場合には」 [P. 21]を参照してください。

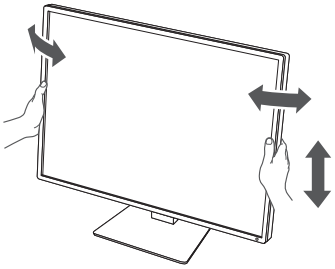
注意点

- 初回接続時や接続方法を変更した場合には、解像度や表示スケールなどのディスプレイ設定が適切でないことがあります。コンピュータの設定が適切になっていることを確認してください。
- 省電力のためにはモニターの電源を切ることをお勧めします。モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- 輝度劣化を抑制しモニターを長くお使いいただくため、および消費電力を抑制するために次のことをおこなってください。
  – コンピュータまたはモニターのパワーセーブ機能を使用する。
  – 使用後はモニターの電源を切る。

2.4 高さ、角度を調整する

モニターの上下または左右を両手で持ち、画面の高さや上下左右の角度を作業に適した状態になるように調整します。





注意点

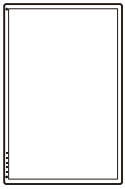
- 調整後、ケーブル類が正しく接続されていることを確認してください。
- 高さ、角度を調整した後、ケーブルをケーブルホルダーに通してください。

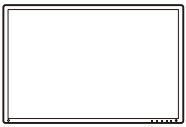
2.5 （ご参考に）アーム取り付け方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、他社製アーム（または他社製スタンド）に取り付けることができます。

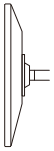
アームまたはスタンド取り付け時の設置可能な方向および角度（チルト角）は次のとおりです。

- 設置方向





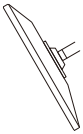
- 設置角度（チルト角）



標準



上：30˚



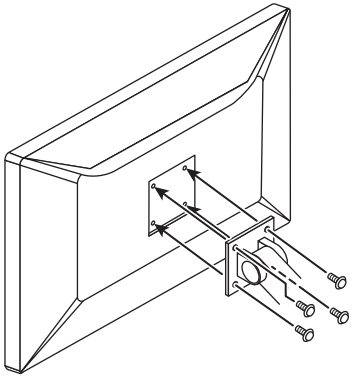
下：30˚

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
  - 取り付け部のねじ穴間隔：100 mm×100 mm
  - アームまたはスタンドのVESAマウント部外観寸法：123.2 mm×123.2 mm以下
  - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
  - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- 締め付けトルクを必ずお守りください。締め付けが適切でない場合、取り付け部分が破損し、けがや故障の原因となります。
  - ねじの締め付けトルク：1.0 N･m～1.4 N･m
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- 取り外したスタンドを昇降させないでください。モニター本体を取り付けていない状態でスタンドを昇降させると、けがや故障の原因となります。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的にねじの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因となります。

1. 液晶パネル面が傷つかないよう、安定した場所に柔らかい布などを敷き、液晶パネル面を下に向けて置きます。

2. 別途ドライバを準備してください。ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじ4箇所を取り外します。
3. 手順2で取り外したねじを使用して、アーム（またはスタンド）を取り付けます。



3 画面が表示されない場合には

電源スイッチのランプが点灯しない

- 電源コードは正しく接続されていますか。
- 背面の主電源スイッチを入れてください。
- ⏻に触れてください。
- 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：緑色

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（設定マニュアル「詳細な調整 / 設定」参照）。
- 背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：橙色

- 入力信号を切り替えてみてください（設定マニュアル「基本の調整 / 設定」参照）。
- マウス、キーボードを操作してみてください。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルが正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。
- DisplayPort信号を入力する場合は、信号ケーブルをDisplayPort信号入力コネクタ（DP）に接続してください。DisplayPort信号出力コネクタ（DP）は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。
- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点滅：橙色、緑色

- 当社指定の信号ケーブルで接続してください。その後、背面の主電源スイッチを切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

画面に「入力信号無し」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出力されないため、上のような画面が表示されることがあります。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルは正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。
- 入力信号を切り替えてみてください（設定マニュアル「基本の調整 / 設定」参照）。
- DisplayPort信号を入力する場合は、信号ケーブルをDisplayPort信号入力コネクタ（DP）に接続してください。DisplayPort信号出力コネクタ（DP）は、デイジーチェーン接続時の出力に使用します。
- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度電源を入れてみてください。

画面に「信号エラー」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（「4.2 対応解像度」 [P. 25]参照）。
- コンピュータを再起動してみてください。
- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

4 仕様

4.1 仕様一覧

4.1.1 液晶パネル

種類		IPS（アンチグレア）
バックライト		LED
サイズ		27型（68.4 cm）
解像度		3840ドット×2160ライン
表示面積（横×縦）		596.16 mm×335.34 mm
画素ピッチ（横×縦）		0.15525 mm×0.15525 mm
表示色	10 bitカラー（DisplayPort）	10.7億色（約5430億色中）
	8 bitカラー（DisplayPort / HDMI）	1677万色（約5430億色中）
視野角（水平 / 垂直、標準値）		178˚ / 178˚
推奨輝度		270 cd/m^2
コントラスト比（標準値）		1450:1
応答速度（標準値）		11 ms（（Tr+Tf）/ 2）

4.1.2 映像信号

入力端子		DisplayPort×1、HDMI×1
出力端子		DisplayPort×1
水平走査周波数	DisplayPort	31 kHz～134 kHz
	HDMI	31 kHz～136 kHz
垂直走査周波数※1	DisplayPort	59 Hz～61 Hz（720×400：69 Hz～71 Hz）
	HDMI	59 Hz～61 Hz（720×400：69 Hz～71 Hz）
フレーム同期モード		59.0 Hz～61.0 Hz
ドットクロック	DisplayPort	25 MHz～540 MHz
	HDMI	25 MHz～600 MHz

※1 解像度により対応可能な垂直走査周波数は異なります。詳細は、「4.2 対応解像度」 [P. 25]を参照してください。

4.1.3 USB

ポート	アップストリーム	USB-B×1
	ダウンストリーム	USB-A×2
規格		USB Specification Rev.2.0
供給電源	ダウンストリーム（USB-A）	最大500 mA / 1ポート

4.1.4 電源

電源入力	AC 100 - 240 V ± 10 %、50 / 60 Hz、1.00 – 0.45 A
最大消費電力	94 W以下※1
省電力時消費電力	0.6 W以下※2
待機時消費電力	0.6 W以下※3

※1 外部負荷接続

※2 DisplayPort信号入力時、「パワーセーブ」：「高」、「DP Power Save」：「オン」、「Daisy Chain」：「オフ」、USBアップストリームポート非接続、外部負荷非接続

※3 「DP Power Save」：「オン」、「Daisy Chain」：「オフ」、USBアップストリームポート非接続、外部負荷非接続

4.1.5 機構

外観寸法（幅×高さ×奥行）	640.0 mm×439.4 mm～529.4 mm×200.0 mm（チルト角度0˚時） 640.0 mm×471.0 mm～561.0 mm×241.5 mm（チルト角度30˚時）
外観寸法（幅×高さ×奥行）（モニター部）	640.0 mm×378.8 mm×73.0 mm
質量	約9.3 kg
質量（モニター部）	約6.4 kg
昇降	90 mm
チルト	上30˚、下5˚
スウィーベル	70˚
ローテーション	90˚（時計回り）

4.1.6 動作環境条件

温度	0 ˚C～35 ˚C※1
湿度	20 %～80 %R.H.（結露なきこと）
気圧	540 hPa～1060 hPa

※1 医用画像観察に使用する場合は、15 ˚C～30 ˚Cでお使いください。

4.1.7 輸送 / 保存環境条件

温度	-20 ˚C～60 ˚C
湿度	10 %～90 %R.H.（結露なきこと）
気圧	200 hPa～1060 hPa

4.2 対応解像度

この製品は次の解像度に対応しています。

○：対応、－：非対応

解像度	垂直走査周波数（Hz）	DisplayPort	HDMI
640×480	59.940	○	○
640×480	60.000	－	○
720×400	70.087	○	○
720×480	59.940	－	○
720×480	60.000	－	○
800×600	60.317	○	○
1024×768	60.004	○	○
1280×720	59.940	－	○
1280×720	60.000	－	○
1280×1024	60.020	○	○
1600×1200	60.000	○	○
1920×1080	59.940	－	○
1920×1080	60.000	－	○
3840×2160※1	59.940	－	○
3840×2160※1	59.997	○	－
3840×2160※1	60.000	－	○

※1 推奨解像度

注意点

- スキャン方式はプログレッシブ方式にのみ対応しています。インターレース方式には対応していません。

4.3 オプション品

次のオプション品を別売りで用意しています。

オプション品に関する最新情報および最新の対応グラフィックスボード情報は、当社のWebサイトを参照してください。

（www.eizo.co.jp）

キャリブレーションキット	RadiCS UX2 Ver.5.3.1以降 RadiCS Version Up Kit Ver.5.3.1以降
ネットワーク品質管理ソフトウェア	RadiNET Pro※1
クリーニングキット	ScreenCleaner
読影室向け間接照明	RadiLight
アーム	AAH-02B3W LA-011-W
小型端末取付用VESAアダプタ	PCSK-R1
信号ケーブル（HDMI - HDMI）	HH200PR

※1 RadiNET Proの対応バージョンについては、お買い上げの販売店またはEIZO株式会社ヘルスケア営業部にお問い合わせください。

付録

医療規格

この製品を用いる装置を設計、使用する場合は、IEC60601-1の規格要求に従ってください。

VCCI

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

また、製品の付属品（ケーブルを含む）や当社が指定する別売オプション品を使用しない場合、VCCIの技術基準に適合できない恐れがあります。

その他規格

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。
この装置は、高調波電流を抑制する日本工業規格JIS C 61000-3-2に適合しております。

EMC情報

RadiForce MX277Wは、医用画像を適正に表示する性能を有しています。

意図した使用環境

RadiForce MX277Wは次の環境での使用を意図しています。

- 医院・病院などの専門的ヘルスケア施設内の環境
- ホームヘルスケア環境のうち住居・住宅などの居住区

次のような環境での使用は意図していません。

- 居住区を除くホームヘルスケア環境
- 電気メスなどの高周波手術機器の近傍
- 短波治療機器の近傍
- MRI用RF遮蔽室内
- 遮蔽された場所の特殊環境内
- 救急車両を含む車載
- その他特殊環境

⚠ 警告

- RadiForce MX277Wは、EMC（電磁両立性）に関する特別な安全上の注意を必要とします。EMC情報および本書内の「使用上の注意」をよくお読みになり、以下の指示に従って、設置、操作する必要があります。
- RadiForce MX277Wは、他の機器に隣接した設置や積み重ねた状態で使用をしないでください。やむを得ずその状態で使用する場合は、RadiForce MX277Wおよびシステムが実際に使用される構成で正常に動作することを確認してください。
- 携帯型RF通信機器は、ケーブルを含むRadiForce MX277Wのいかなる部分に対しても、30 cm（12インチ）以上離して使用してください。RadiForce MX277Wに影響を与える恐れがあります。
- 信号入力部または出力部に追加装置を接続し、医療システムで使用する場合は、必ずIEC60601-1-2の要件に準拠してください。
- RadiForce MX277Wの使用中は信号入出力コネクタ類には触らないでください。表示画像に影響を与える恐れがあります。
- ケーブルは、必ず次の表の条件を満たすケーブルを使用してください。
  条件を満たさないケーブルを使用した場合、電磁妨害波の増加、電磁妨害に対する耐性低下の恐れがあります。

信号ポート	最大ケーブル長	シールド	フェライトコア	推奨ケーブル
DisplayPort （入力）	3 m	シールドあり	フェライトコアなし	PP300-V14
DisplayPort （出力）	3 m	シールドあり	フェライトコアなし	PP300 / PP300-V14
HDMI	2 m	シールドあり	フェライトコアなし	HH200PR
USB-B （アップストリーム）	3 m	シールドあり	フェライトコアあり	UU300 / MD-C93
USB-A （ダウンストリーム）	3 m	シールドあり	フェライトコアなし	―

信号ポート	最大ケーブル長	シールド	フェライトコア	推奨ケーブル
ACインレット （またはAC入力）	3 m	シールドなし	フェライトコアなし	アース付き

技術的説明

電磁エミッション

RadiForce MX277Wは、次に規定する電磁環境内での使用を意図している。

顧客またはRadiForce MX277Wの使用者は、次の環境でRadiForce MX277Wが使用されていることを確認すること。

エミッション試験	適合性	電磁環境 - ガイダンス
RFエミッション CISPR11	グループ1	RadiForce MX277Wは、内部機能のためだけにRFエネルギーを使用している。 したがって、そのRFエミッションは非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
RFエミッション CISPR11	クラスB	RadiForce MX277Wは、住居環境および住居環境の建物に供給する公共の低電圧用の配電網に直接接続された建造物を含む、すべての施設での使用に適している。
高調波エミッション IEC61000-3-2	クラスD	
電圧変動/フリッカエミッション IEC61000-3-3	適合	

電磁イミュニティ

RadiForce MX277Wは、IEC60601-1-2で規定される専門的ヘルスケア施設環境およびホームヘルスケア環境での要求試験レベル（T）に対して、次の適合レベル（C）で試験されている。

顧客またはRadiForce MX277Wの使用者は、次の環境でRadiForce MX277Wが使用されていることを確認すること。

イミュニティ試験	試験レベル（T）	適合レベル（C）	電磁環境 - ガイダンス
静電気放電（ESD） IEC61000-4-2	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は、少なくとも30%であること。
電気的ファストトランジェント/バースト IEC61000-4-4	±2 kV 電源ライン ±1 kV 信号入出力ライン	±2 kV 電源ライン ±1 kV 信号入出力ライン	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
サージ IEC61000-4-5	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
交流電源における電圧ディップ、瞬時停電、および電圧変動 IEC61000-4-11	0%U_T（100%U_Tのディップ）0.5サイクル、1サイクル 70%U_T（30%U_Tのディップ）25サイクル / 50 Hz 0%U_T（100%U_Tのディップ）250サイクル / 50 Hz	0%U_T（100%U_Tのディップ）0.5サイクル、1サイクル 70%U_T（30%U_Tのディップ）25サイクル / 50 Hz 0%U_T（100%U_Tのディップ）250サイクル / 50 Hz	電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。RadiForce MX277Wの使用者が、電源の停電中にも連続した稼働を要求する場合は、RadiForce MX277W への電力を無停電電源または電池から供給することを推奨する。
電力周波数磁界 IEC61000-4-8	30 A/m （50/60 Hz）	30 A/m	電力周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つこと。 電力周波数磁界の発生源とは少なくとも15 cm以上離して使用すること。

イミュニティ試験	試験レベル（T）	適合レベル（C）	電磁環境 - ガイダンス
			携帯型および移動型RF通信機器は、ケーブルを含むRadiForce MX277Wのいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算された推奨分離距離より近づけて使用しないこと。 推奨分離距離
RF電磁界による伝導妨害 IEC61000-4-6	3 Vrms 150 kHz～80 MHz	3 Vrms	$d = 1.2\sqrt{P}$
	6 Vrms 150 kHz～80 MHz間のISM帯域[※1]およびアマチュア無線帯域[※2]	6 Vrms	$d = 1.2\sqrt{P}$
放射RF電磁界 IEC61000-4-3	10 V/m 80 MHz～2.7 GHz	10 V/m	$d = 1.2\sqrt{P}$ 80 MHz～800 MHz $d = 2.3\sqrt{P}$ 800 MHz～2.7 GHz ここでPは、送信機製造業者によるワット（W）で表した送信機の最大定格出力電力であり、dはメートル（m）で表した推奨分離距離である。電磁界の現地調査[※3]によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲[※4]における適合レベルよりも低いこと。 次の記号が表示されている機器の近傍では、干渉が発生する可能性がある。 

参考

- U_tは、試験レベルを加える前の、交流電源電圧である。
- 80 MHzおよび800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。
- RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。

※1 150 kHz～80 MHz間のISM（工業用、科学用および医学用）帯域は、6.765 MHz～6.795 MHz、13.553 MHz～13.567 MHz、26.957 MHz～27.283 MHz、および40.66 MHz～40.70 MHzである。

※2 0.15 MHz～80 MHzのアマチュア無線帯域は、1.8 MHz～2.0 MHz、3.5 MHz～4.0 MHz、5.3 MHz～5.4 MHz、7 MHz～7.3 MHz、10.1 MHz～10.15 MHz、14 MHz～14.2 MHz、18.07 MHz～18.17 MHz、21.0 MHz～21.4 MHz、24.89 MHz～24.99 MHz、28.0 MHz～29.7 MHz、および50.0 MHz～54.0 MHzである。

※3 例えば、（携帯/コードレス）電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM/FMラジオ放送およびTV放送などの固定送信機からの電界強度を、正確に論理的に予測することはできない。固定RF送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮すること。RadiForce MX277Wが使用される場所において測定した電界強度が、上記の適用されるRF適合性レベルを超える場合は、RadiForce MX277Wが正常に動作するかを検証するために監視すること。異常動作が確認された場合は、RadiForce MX277Wの再配置または再設置のような追加対策が必要になることがある。

※4 周波数範囲150 kHz～80 MHzにわたって、電界強度は3 V/m未満であること。

携帯型および移動型RF通信機器との間の推奨分離距離と確認された各種通信機器サービス

RadiForce MX277Wは、放射RF妨害が管理されている電磁環境内での使用を意図している。顧客または RadiForce MX277Wの使用者は、携帯形及び移動型RF通信機器（送信機）とRadiForce MX277Wとの間の最小距離（30 cm）を維持することで、電磁妨害を抑制することができる。以下のRF通信サービスにおける近接電磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、RadiForce MX277Wは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数（MHz）	帯域[※1]（MHz）	サービス[※1]	変調[※2]	試験 レベル（T）[※3]（V/m）	適合レベル（C）（V/m）
385	380～390	TETRA 400	パルス変調[※2] 18 Hz	27	27
450	430～470	GMRS 460, FRS 460	FM ±5 kHz偏差 1 kHz正弦	28	28
710	704～787	LTE帯域13,17	パルス変調[※2] 217 Hz	9	9
745					
780					
810	800～960	GSM800/900, TETRA 800, iDEN 820, CDMA 850, LTE帯域5	パルス変調[※2] 18 Hz	28	28
870					
930					
1720	1700～1990	GSM 1800; CDMA 1900; GSM 1900; DECT; LTE帯域1,3,4,25; UMTS	パルス変調[※2] 217 Hz	28	28
1845					
1970					
2450	2400～2570	ブルートゥース®, WLAN, 802.11 b/g/n, RFID 2450, LTE帯域7	パルス変調[※2] 217 Hz	28	28
5240	5100～5800	WLAN 802.11a/n	パルス変調[※2] 217 Hz	9	9
5500					
5785					

※1 サービスによっては、アップリンク周波数のみ含まれる。

※2 搬送波は、50%デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。

※3 試験レベルは、最大電力、30 cmの分離距離により計算した。

顧客またはRadiForce MX277Wの使用者は、RF送信機と RadiForce MX277Wとの間の最小距離（15cm）を維持することで、近接磁界による妨害を抑制することができる。以下の近接磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、RadiForce MX277Wは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数	変調	試験レベル（T） （A/m）	適合レベル（C） （A/m）
30 kHz	CW（連続波）	8	8
134.2 kHz	パルス変調※1 2.1 kHz	65	65
13.56 MHz	パルス変調※1 50 kHz	7.5	7.5

※1 搬送波は、50%デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。

その他の携帯型及び移動型RF通信機器（送信機）について、通信機器の最大出力に基づくRadiForce MX277Wとの間の最小距離は、次のとおりである。

送信機の最大定格出力 （W）	送信機の周波数に基づく分離距離 （m）		
	150 kHz～80 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	80 MHz～800 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	800 MHz～2.7 GHz $d = 2.3\sqrt{P}$
0.01	0.12	0.12	0.23
0.1	0.38	0.38	0.73
1	1.2	1.2	2.3
10	3.8	3.8	7.3
100	12	12	23

上記にリストされていない最大定格出力の送信機に関しては、送信機の周波数に対応する式を使用して推奨分離距離d（単位はメートル（m））を決定できる。ここで、Pは送信機製造業者による送信機の最大定格出力（単位はワット（W））である。

参考

- 80 MHzおよび800 MHzにおいて、分離距離は高い周波数範囲を適用する。
- RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。

アフターサービス

製品の使い方に関するお問い合わせ

製品の機能説明や操作方法に関するご相談を受け付けております。
お問い合わせの際は、事前に製品の取扱説明書やWebサイトのFAQ、互換性情報をご確認の上、下記Webサイトの問合せ窓口からご相談ください。
www.eizo.co.jp/support/product/inquiry/
問い合わせ先（EIZO サポートネットワーク株式会社）：

札幌　TEL：011-737-6588	名古屋　TEL：052-232-0151	広島　TEL：082-535-6770
仙台　TEL：022-212-8750	北陸　TEL：076-274-2400	高松　TEL：087-867-9414
東京　TEL：03-5764-3571	大阪　TEL：06-6398-6522	福岡　TEL：092-762-2170

修理に関するお問い合わせ

製品の修理に関するご相談を受け付けております。
修理をご希望の際は、下記Webサイトの修理申込みフォームからご依頼ください。
お申込みの混雑状況によっては、お時間をいただく場合がございますのでご了承ください。
www.eizo.co.jp/support/after/

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。
当社製品は、一般社団法人「パソコン3R推進協会」が回収させていただきます。
回収を希望されるお客様は下記Webサイトからお申し込みください。
www.eizo.co.jp/support/recycle/
※ この製品は業務用途を意図した製品ですので、ご使用後廃棄される場合は有償となります。

EIZO株式会社
〒924-8566　石川県白山市下柏野町153番地

00N0N762AZ
IFU-MX277W

www.eizo.co.jp

© 2026 EIZO Corporation. All rights reserved.

Version 1.00 – September 2nd, 2026